

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H01820

研究課題名(和文) 科学をめぐる専門的判断の不定性に関する実証的研究

研究課題名(英文) Incertitude of expert judgments over science

研究代表者

本堂 毅 (HONDOU, TSUYOSHI)

東北大学・理学研究科・准教授

研究者番号：60261575

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 30,700,000円

研究成果の概要(和文)：現代社会は個人レベルでも社会のレベルでも、その意思決定に科学的知見が必要になる場合が少なくありません。しかし科学的知見には、それだけでは意思決定を決めることができない性質が、様々なレベルで存在します。それは旧来の科学的不確実性ばかりではなく、何が重要かという価値判断に関わる事柄もあり、社会的対立の原因ともなっています。私たちは、この不定性を前提とした社会的議論や意思決定のあり方について、新しい裁判方式についての国際研究や、不定性への理解を深める教育カリキュラムの実践研究などを行い、建設的議論が成り立つための制度設計の条件や、教育のあり方などを明らかにしました。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我々の研究により、科学と社会の狭間で生まれる「科学的不定性」の様々な階層を概念的に整理することができました。その概念は、新型コロナウイルスのまん延に伴って生じた「専門的判断」をめぐる具体的問題に応用されて法学や科学技術社会論の論文として発表されました。その結果、法学的議論等が具体的に整理・促進された事実は、私たちがこれまで明らかにしてきた科学的不定性への理解が正しかったことを示していると考えられます。

研究成果の概要(英文)：Modern societies, both at the individual and social levels, often require scientific knowledge to make their decisions. However, scientific knowledge has properties at various levels that cannot make decisions on its own. It is not only the traditional scientific uncertainty, but also the problems over value judgment of what is important, and they are the cause of social conflict. We conduct international research on new court methods and practical research on educational curriculum to deepen understanding of scientific incertitude. We clarified the conditions for institutional design to be established and the ideal way of education.

研究分野：科学技術社会論, 統計物理学, 臨床環境医学

キーワード：STS 不定性 専門知

## 1. 研究開始当初の背景

科学的知識をめぐる専門的判断は、第一に、科学的知識の経験的性質に由来する不確かさ(不定性)を原理的に避け得ない。科学技術に関わる判断は、それが最先端であるほど、この不定性が高くなる。第二に、科学的知識をめぐる専門的判断でも、規範的(社会的、価値的)判断を避けることは難しい。何を判断要素(subject)とし、どの程度の規範的重み付けで評価するかについての任意性(不定性)があるためであり、技術や医療、法廷が典型である。

専門家集団の間で起きる専門的判断でのズレの原因には、専門分野ごとに、また判断の局面ごとに妥当性の基準が異なることがある。科学の専門家と法の専門家での、科学技術をめぐる専門的判断の差異は、特定の事実要素に対する評価、すなわち証明度だけに帰せられるものではない。先に述べたように「何を」判断要素(subject)とし、複数の要素間で「何をより重要と考え、どの程度の重みづけで総合評価するか」という規範的判断にかかわる不定性(多義性)があるため、事実認定に関して(当事者間に)争いが無い場合でも、総合評価の結果としての判決は一意ではない(不定性を持つ)。有名なルンバール判決は、複数の要素のうち、法的判断として規範的要素をより優先したものの、と見ることができる。このように科学的争点を持つ専門的判断においては、経験知としての科学的事実自体の不定性と、規範的判断の不定性の双方が影響し、専門的判断の妥当性を見えにくくしている。そのため、事実判断の不定性と規範的判断の不定性を分離し、それらの要素を定量的に可視化することが、不毛な押し問答を回避し、建設的対話を促すために重要となる。

## 2. 研究の目的

(1) 社会的意思決定における専門知の利用をより合理的・建設的なものとするために、意見の多様性の要因を可視化することを目指す。医療、科学技術、規制行政、科学裁判などを具体的事象として、科学技術をとりまく専門的判断における事実判断の不確かさ(不定性)と、避けることのできない規範的判断の不定性の双方を可視化することにより、不定性を前提とした合意形成のための制度の条件を明らかにする。

(2) 科学的不定性の様々な階層への理解ができる人材を育むための教育プログラムを開発する。

## 3. 研究の方法

### (1) 専門的判断の相場観、規範的要素のメタ分析

研究結果をどの段階で論文にし公表すべきか、多様な可能性の中からどの研究計画を選択するかは、学問自体では定まらない。そこには、価値判断を伴った割り切りを避け得ず、価値判断の重み付けは、研究者、分野によっても大きく異なる。多様な専門を持つメンバーで研究を開始するにあたり、全メンバーが集まる全体研究会で、自らの研究・実践行為をメタ分析(自己言及)する。これにより、専門的判断の不定性に内在する規範的要素と普遍的構造を浮かび上がらせ、以降の研究に必要なメンバー間の共通感覚・問題意識を顕在化させる。

## (2) 専門的判断の不定性の事例収集と要素抽出

専門的判断の不定性の定量的かつ実証的可視化のためには、典型例となるべき事例の収集とそのメタ分析が不可欠である。事例の収集は以下の分野を対象とする。本研究組織は、自然科学、社会科学の幅広い分野の第一線で活躍し、不定性解析に不可欠な当該分野の機微に通じ、かつ科学論を理解する研究者で構成されている。各分野から解析に適した事例を収集する。

- ・ 医学
- ・ 技術における意思決定の場
- ・ 行政的、政治的意思決定の場
- ・ 法廷における意思決定の場
- ・ 社会への科学的助言の場

## (3) 専門的判断と意思決定：専門知の不定性を前提とした制度設計の条件解析

現実の裁判への傍聴、弁護士や裁判官へのインタビュー、資料解析などにより、科学的不定性を直視した社会的意思決定に必要な条件を明らかにする。また、裁判以外の行政的意思決定なども解析の対象とする。

## (4) 実践教育研究

科学的不定性への理解は科学的知識のみならず、市民の価値判断の多様性などへの理解も要するものであり、新しい教育カリキュラムを必要とする。そこで、大学における授業を通して実践研究教育を行い、カリキュラムの有効性を検証しつつ開発する。

## (5) 公開シンポジウム

研究グループの学術的成果について公開シンポジウムで発表し、学術と一般市民双方からのフィードバックを受ける。

## 4. 研究成果

### (1) 科学をめぐる専門的判断の不定性を可視化するための制度設計の条件

オーストラリア・ヴィクトリア州最高裁判所で専門的争点を有する民事裁判の傍聴と担当官へのインタビュー調査を行った。その結果、専門的知見の不定性を裁判において活用する手法であるコンカレント・エヴィデンスのプロセスの一つであるジョイント・カンファレンスと呼ばれる手法のみの採用であっても専門的知見を旧来より有効に使えることが明らかになった。メルボルンで得られたこの知見は、オーストラリア他州の法律家にも知られていないことが、コンカレント・エビデンス方式に最も詳しいニューサウスウェールズ州での裁判官へのインタビューによって判明した。この方法は、日本の裁判等においても導入が容易な手法と考えられる。

### (2) 科学の不定性を学ぶための教育的方法の開発

大学院学生を対象とした集中講義における実践的研究により、学生たち自身を不定性のサンプルとして活用することで学生自らが不定性に気づくことができる授業プログラムを開発した。この知見は国際学会（4S）等でも発表を行なった。

(3) 立命館大学で行われた、オーストラリア・NSW州土地環境裁判所長官プレストン判事を招いての国際シンポジウムを共催し、専門的判断の不定性を前提とした法的意思決定の具体的・実務的条件を明らかにした。

#### (4) 新型コロナウイルス発生に伴う専門的判断の混乱の学術的整理と提言

新型コロナウイルスのまん延に伴うパンデミックによって、科学的不定性が大きい状況での「科学をめぐる専門的判断」のあり方が、社会的に大きく問われる状況が生じた。この現実への詳細な観察により、様々な問題が明らかになった。たとえば、a) 科学的根拠が十分確立されていない知見が確実であるかのように社会に流布された結果、後に誤りが明らかになってきても、古い知識に基づいた対応が引き続き行われてしまう問題、b) 規範的な議論によって政策決定されるべき論点が専門家と呼ばれる医学者集団によって決定されてしまう問題、c) 規範的議論を行うべき法律家や政治の側が自らの問題であることに気付けない、等が指摘できる。a) では、政策決定に関わる助言を行う専門家の議論がクローズドで行われ、助言の科学的根拠が明らかにされない、b) では社会的公平性に関わる論点まで科学者が実質的判断を行っている現象が観察された。本研究グループでは、これらの問題を科学技術社会論や政治学、法学の観点から詳細に観察・分析した。a) については感染制御策の経済性を解析することを通して、感染症分野だけでなされた判断の恣意性が可視化され、物理学会で招待講演として取り上げられるなど内外でも大きな反響を読んだ。また、c) の問題の存在を可視化するために、科学的・医学的知見では定まらない、社会的公平に関わる規範的問題が存在することを法学雑誌に論文掲載した。この論文に触発され、法学的議論が促進された事実は、私たちがこれまで明らかにしてきた科学的不定性への理解が正しかったことを示している。コロナ問題から見えて来た専門知の問題点を整理し、不定性のある中での専門知の在り方についての提言を行うべく準備を行っている。成果は学会シンポジウムを含む講演、学術雑誌等で発表した。一般読者が目にする媒体での執筆、記者会見などのアウトリーチ活動も積極的に行った。

(5) 巨大技術の路線決定について過去の事例を分析し、多くの場合に技術の専門家による規範的判断が行われていることを明確にした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計48件（うち査読付論文 21件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 平田光司、高岩義信	4. 巻 59
2. 論文標題 共同利用研究所における自治の相克	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 科学史研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 本堂 毅	4. 巻 28
2. 論文標題 電磁波不耐性：必要十分な研究を行うための諸条件	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床環境医学	6. 最初と最後の頁 1,4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 本堂 毅	4. 巻 74
2. 論文標題 医学的研究のクオリティにみる科学の手続的正統性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本物理学会誌	6. 最初と最後の頁 661
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 米村滋人	4. 巻 29
2. 論文標題 ゲノム医学・医療の進展に向けた法的課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 遺伝子医学	6. 最初と最後の頁 153, 159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 30
2. 論文標題 波災害に関する過失判断 災害損害賠償責任論・序説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 論考ジュリスト	6. 最初と最後の頁 92, 99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 34
2. 論文標題 医療情報に関する法制度上の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報医事法学	6. 最初と最後の頁 117, 126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 2017年号
2. 論文標題 生命医学研究の法制度設計に関する課題と展望	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法哲学年報	6. 最初と最後の頁 42, 59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人, 藤田卓仙, 吉峯耕平, 黒田知宏	4. 巻 33
2. 論文標題 医療情報ルールの再構成の方向を探る 医療 / 医学研究の両面から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 年報医事法学	6. 最初と最後の頁 55, 71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hondou Tsuyoshi	4. 巻 13
2. 論文標題 Kagaku kantei no esunogurafi: Nyujirando niokeru houkagaku raboratori no jissen 科学鑑定のエスノグラフィ ニュージーランドにおける法科学ラボラトリーの実践 [An Ethnography of Forensic Science: Practices in the Forensic Laboratories of New Zealand]	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 East Asian Science, Technology and Society	6. 最初と最後の頁 151 ~ 153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1215/18752160-6976593	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 水野紀子	4. 巻 667
2. 論文標題 民法における成年年齢	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 青少年問題	6. 最初と最後の頁 18-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野紀子	4. 巻 2
2. 論文標題 日本家族法の特徴と婚姻の行方	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国立国会図書館調査資料2017-2「家族のダイバーシティーヨーロッパの経験から考えるー・平成28年度国際政策セミナー報告書」	6. 最初と最後の頁 67-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野紀子	4. 巻 233
2. 論文標題 責任無能力による免責と運行供用者責任	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京地裁平成25年3月7日判決評釈 交通事故判例百選 (第5版) 別冊ジュリスト	6. 最初と最後の頁 22-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野紀子	4. 巻 47
2. 論文標題 民法と社会的・制度的条件	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 公証法学	6. 最初と最後の頁 1-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺千原	4. 巻 13
2. 論文標題 紛争解決過程における専門知	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 仲裁とADR	6. 最初と最後の頁 72-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chihara Watanabe	4. 巻 14
2. 論文標題 Compensation Schemes for Damages Caused by Healthcare and Alternatives to Court Proceedings in Japanese Law	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ICCLP Publications	6. 最初と最後の頁 61-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田光司	4. 巻 56
2. 論文標題 日本の高エネルギー研究者集団の形成における科研費総合研究宮本班の役割	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 科学史研究第 III 期	6. 最初と最後の頁 17-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 米村滋人	4. 巻 32
2. 論文標題 シーラ・ジャサノフ著（渡辺千原＝吉良貴之監訳）『法廷に立つ科学 「法と科学」入門』（書評）	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 年報医事法学	6. 最初と最後の頁 180-185
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 1103
2. 論文標題 医学研究における個人情報保護の概要と法改正の影響	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 NBL	6. 最初と最後の頁 6-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 89-11
2. 論文標題 最高裁判決の意義と今後の制度設計のあり方（小特集：責任無能力者による不法行為と「家族」の責任）	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 法律時報	6. 最初と最後の頁 108-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 35-17
2. 論文標題 個人情報保護の規制とバイオバンク	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 実験医学増刊・ヒト疾患のデータベースとバイオバンク	6. 最初と最後の頁 150-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 24
2. 論文標題 医療情報利用の法的課題・序論 特集にあたって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 論究ジュリスト	6. 最初と最後の頁 102-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田卓仙、米村滋人	4. 巻 24
2. 論文標題 医療情報の利活用の今後 つくり、つなげ、ひらくための制度設計	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 論究ジュリスト	6. 最初と最後の頁 135-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田卓仙、山本奈津子、米村滋人	4. 巻 15
2. 論文標題 遺伝/ゲノム情報の改正個人情報保護法上の位置づけとその影響	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 情報ネットワーク・ローレビュー	6. 最初と最後の頁 58-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人、藤田卓仙、吉峯耕平、黒田知宏	4. 巻 33
2. 論文標題 医療情報ルールの再構成の方向を探る	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 年報医事法学	6. 最初と最後の頁 55-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 2017
2. 論文標題 生命医学研究の法制度設計に関する課題と展望	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法哲学年報	6. 最初と最後の頁 42-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 90-11
2. 論文標題 死と臓器移植への公的介入	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法律時報	6. 最初と最後の頁 58-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakayama Maresuke, Nakamura Aya, Hondou Tsuyoshi, Miyata Hidetake	4. 巻 92
2. 論文標題 Evaluation of cell viability, DNA single-strand breaks, and nitric oxide production in LPS-stimulated macrophage RAW264 exposed to a 50-Hz magnetic field	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 International Journal of Radiation Biology	6. 最初と最後の頁 583 ~ 589
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09553002.2016.1206224	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本堂 毅、須藤 彰三、関根 勉	4. 巻 22
2. 論文標題 弦の振動と音楽 科学の普遍性と適用限界を伝える実験教育(教育実践)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 大学の物理教育	6. 最初と最後の頁 22 ~ 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11316/peu.22.1_22	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本堂 毅, 渡辺千原	4. 巻 2309
2. 論文標題 シンポジウム報告『科学の専門知を法廷でどう扱うか』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 判例時報	6. 最初と最後の頁 11-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本堂 毅	4. 巻 132
2. 論文標題 専門家と市民の「ボタンの掛け違い」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本建築学会 建築雑誌	6. 最初と最後の頁 24-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田 光司	4. 巻 44
2. 論文標題 高エネルギー物理学研究所の誕生 - 共同利用機関とは	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 210-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田 光司	4. 巻 7
2. 論文標題 核の誘惑：戦前日本の科学文化と「原子力ユートピア」の出現	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本物理学会誌	6. 最初と最後の頁 209-209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野 紀子	4. 巻 233
2. 論文標題 責任無能力による免責と運行供用者責任	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京地裁平成25年3月7日判決評釈 交通事故判例百選（第5版）別冊ジュリスト	6. 最初と最後の頁 22-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野 紀子	4. 巻 326
2. 論文標題 子育てと家族と法	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ケース研究	6. 最初と最後の頁 81-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野 紀子	4. 巻 2
2. 論文標題 日本家族法の特徴と婚姻の行方	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国立国会図書館調査資料2017「家族のダイバーシティ ヨーロッパの経験から考える ・平成28年度国際政策セミナー報告書」	6. 最初と最後の頁 67-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野 紀子	4. 巻 83
2. 論文標題 児童虐待の影響と対策	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 I.I.MECA	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koarai Kazuma, Kino Yasushi, Takahashi Atsushi, Suzuki Toshihiko, Shimizu Yoshinaka, Chiba Mirei, Osaka Ken, Sasaki Keiichi, Urushihara Yusuke, Fukuda Tomokazu, Isogai Emiko, Yamashiro Hideaki, Oka Toshitaka, Sekine Tsutomu, Fukumoto Manabu, Shinoda Hisashi	4. 巻 183
2. 論文標題 90 Sr specific activity of teeth of abandoned cattle after the Fukushima accident ? teeth as an indicator of environmental pollution	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Environmental Radioactivity	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morimoto Motoko, Kato Ayaka, Kobayashi Jin, Okuda Kei, Kuwahara Yoshikazu, Kino Yasushi, Abe Yasuyuki, Sekine Tsutomu, Fukuda Tomokazu, Isogai Emiko, Fukumoto Manabu	4. 巻 13
2. 論文標題 Gene expression analyses of the small intestine of pigs in the ex-evacuation zone of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 MC Veterinary Research	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12917-017-1263-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山純平、小荒井 一真、木野 康志、高橋 温、鈴木 敏彦、清水 良央、千葉 美麗、小坂 健、佐々木 啓一、福田 智一、磯貝 恵美子、岡 壽崇、関根 勉、福本 学、篠田 壽	4. 巻 128
2. 論文標題 福島第一原発事故被災ウシの歯と骨に含まれるSr-90測定	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Proceedings of the 17th Workshop on Environmental Radioactivity	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小荒井 一真、木野 康志、西山純平、高橋 温、鈴木 敏彦、清水 良央、千葉 美麗、小坂 健、佐々木 啓一、福田 智一、磯貝 恵美子、岡 壽崇、関根 勉、福本 学、篠田 壽	4. 巻 122
2. 論文標題 福島第一原発事故による被災ウシの歯のSr-90及びCs-137比放射能と体内Cs-137分布の比較	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Proceedings of the 17th Workshop on Environmental Radioactivity	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koarai Kazuma, Kino Yasushi, Takahashi Atsushi, Suzuki Toshihiko, Shimizu Yoshinaka, Chiba Mirei, Osaka Ken, Sasaki Keiichi, Fukuda Tomokazu, Isogai Emiko, Yamashiro Hideaki, Oka Toshitaka, Sekine Tsutomu, Fukumoto Manabu, Shinoda Hisashi	4. 巻 11
2. 論文標題 90Sr in teeth of cattle abandoned in evacuation zone: Record of pollution from the Fukushima-Daiichi Nuclear Power Plant accident	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0155069
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/srep24077	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koarai Kazuma, Kino Yasushi, Takahashi Atsushi, Suzuki Toshihiko, Shimizu Yoshinaka, Chiba Mirei, Osaka Ken, Sasaki Keiichi, Fukuda Tomokazu, Isogai Emiko, Yamashiro Hideaki, Oka Toshitaka, Sekine Tsutomu, Fukumoto Manabu, Shinoda Hisashi	4. 巻 6
2. 論文標題 90Sr in teeth of cattle abandoned in evacuation zone: Record of pollution from the Fukushima-Daiichi Nuclear Power Plant accident	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/srep24077	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 32
2. 論文標題 「シーラ・ジャサノフ著 (渡辺千原 = 吉良貴之監訳) 『法廷に立つ科学 「法と科学」入門』」(書評)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 年報医事法学	6. 最初と最後の頁 180-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 1103
2. 論文標題 医学研究における個人情報保護の概要と法改正の影響	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 NBL	6. 最初と最後の頁 6-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田卓仙、山本奈津子、米村滋人	4. 巻 15
2. 論文標題 遺伝/ゲノム情報の改正個人情報保護法上の位置づけとその影響	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 情報ネットワーク・ローレビュー	6. 最初と最後の頁 58-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 24
2. 論文標題 医療情報利用の法的課題・序論 特集にあたって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 論究ジュリスト	6. 最初と最後の頁 102-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田卓仙、米村滋人	4. 巻 24
2. 論文標題 医療情報の利活用の今後 つくり、つなげ、ひらくための制度設計	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 論究ジュリスト	6. 最初と最後の頁 135-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人、板倉陽一郎、黒田知宏、高木利久、田代志門、吉峯耕平	4. 巻 24
2. 論文標題 医療・医学研究における個人情報保護と利活用の未来〔座談会〕	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 論究ジュリスト	6. 最初と最後の頁 142-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



〔学会発表〕 計54件（うち招待講演 21件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 平田光司、高岩義信
2. 発表標題 加速器機種変更の社会学
3. 学会等名 日本物理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高岩義信、平田光司
2. 発表標題 高エネルギー加速器の共同利用の形態のうつりかわり 全国大学共同利用から国際化のながれ
3. 学会等名 日本物理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高岩義信、平田光司
2. 発表標題 原子核研究将来計画の実現における高エネルギー(加速器) と超高エネルギー(宇宙線)
3. 学会等名 日本物理学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高岩義信、平田光司
2. 発表標題 1962 年日本学術会議勧告「原子核研究将来計画」における高エネルギー加速器設計の変遷 その諸要因とその本質についての考察
3. 学会等名 日本科学史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本堂 毅
2. 発表標題 受講者の多様性を逆手に取った大学院授業の経験
3. 学会等名 科学技術社会論学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tsuyoshi HONDOU
2. 発表標題 What is scientific proof? --- A new workshop-style class for graduate students
3. 学会等名 4S Sydney 2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tsuyoshi HONDOU
2. 発表標題 What is scientific proof? --- A new workshop-style class for graduate students
3. 学会等名 SOCIETY FOR SOCIAL STUDIES OF SCIENCE（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 本堂 毅
2. 発表標題 受講者の多様性を逆手に取った大学院授業の経験
3. 学会等名 科学技術社会論学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺千原
2. 発表標題 司法と報道：国民的基盤の形成の観点から
3. 学会等名 第28回司法シンポジウムプレシンポジウム「市民と司法をつなぐマスメディアの役割」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 WATANABE, Chihara
2. 発表標題 Gender and Science: Institutional and discouce analysis of recent Supreme Court rulings of family law cases
3. 学会等名 RCSL/SDJ Annual Meetings
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平田光司, 高岩義信
2. 発表標題 原子核特別委員会高エネルギー加速器準備委員会 (KKJ: 1962 1964) における「原子核研究将来計画」の検討
3. 学会等名 日本物理学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平田光司, 高岩義信
2. 発表標題 素粒子研究所（原子核研究将来計画）のための高エネルギー加速器の機種「変更」について
3. 学会等名 日本物理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kohji Hirata
2. 発表標題 Incertitude of the Science in case of the Highest Luminosity Accelerator
3. 学会等名 the Society for Social Studies of Science (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平田光司, 高岩義信
2. 発表標題 学術会議原子核研究将来計画における体制問題
3. 学会等名 日本科学史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平田光司, 高岩義信
2. 発表標題 1965年の「素粒子研究所」加速器機種変更をめぐる言説
3. 学会等名 日本物理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平田光司
2. 発表標題 先端加速器の機種選択の不定性
3. 学会等名 科学技術社会論学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 改正個人情報保護法の概要と医療機関における対応
3. 学会等名 日本医療情報学会関西支部講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 個人情報保護規制の内容と医療・医学研究における留意点
3. 学会等名 日本病理学会セミナー（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shigeto Yonemura
2. 発表標題 Legal and social problems on commercial use of medical data in Japan
3. 学会等名 テッサロニキ大学講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 個人情報保護法改正・指針改正後の問題点
3. 学会等名 ゲノムテクノロジー第164 委員会・第55 回研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 生命医学研究の法制度設計に関する課題と展望
3. 学会等名 2017年度日本法哲学会学術大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 個人情報保護法改正の概要と症例報告における問題
3. 学会等名 第113回日本精神神経学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 改正法の概要と臨床研究における問題点
3. 学会等名 第14回DIA日本年会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 個人情報保護法改正後の臨床研究・ゲノム研究における問題点
3. 学会等名 日本人類遺伝学会第62回大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 個人情報保護法改正後の医療・医学研究における問題点
3. 学会等名 第8回日本血液学会関東甲信越地方会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 個人情報保護法改正後の医療・医学研究における問題点
3. 学会等名 日本脳ドック学会総会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 DVOと医療実務の問題点
3. 学会等名 法と経済学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 医学研究における個人情報の取扱いと今後の課題
3. 学会等名 遺伝医学セミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 津波被害に関する過失判断
3. 学会等名 日本私法学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 医療情報に関する法制度上の課題
3. 学会等名 日本医事法学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeto Yonemura
2. 発表標題 Several Issues on Data Subject's Consent for Data Transfer
3. 学会等名 BESETO Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 個人情報保護の法的問題
3. 学会等名 中興大学講演会（台湾）（招待講演）
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 医療過誤訴訟における権利法益侵害・損害の要件事実
3. 学会等名 医療訴訟と要件事実・講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 災害の法的責任と「検証」 医療事故調査と対比して
3. 学会等名 日本災害情報学会 20 周年記念大会 ・日本災害復興学会 10 周年記念大会合同大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 個人情報保護規制の内容と 医療情報に関する課題
3. 学会等名 信州大学軽井沢セミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 医学の不確実性と 医療過誤判例
3. 学会等名 環境法政策研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 Fundamental Framework of Legal Regulations for Biomedical Research
3. 学会等名 第83回日本循環器学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tsuyoshi HONDOU
2. 発表標題 Research Project on Scientific Incertitude and Decision-Making: An Interdisciplinary Collaboration with Lawyers, Political Scientists, Educational Theorists, Science Policy Specialists, Medical Doctors, and Natural Scientists
3. 学会等名 The 12th East Asian Science Technology and Society Network Conference（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 本堂 毅、他
2. 発表標題 電磁場不耐症臨床研究の自動化アルゴリズム設計と開発
3. 学会等名 日本臨床環境医学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 本堂 毅
2. 発表標題 専門的証拠のための訴訟手続き：科学の専門知を法廷でどう扱うか？
3. 学会等名 公開シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 本堂 毅
2. 発表標題 科学の不定性と社会 : 現代の科学リテラシーとは 「はじめに」
3. 学会等名 科学技術社会論学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平田 光司、高岩 義信
2. 発表標題 原子核将来計画と高エネルギー物理学研究者集団の形成
3. 学会等名 科学史学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 高岩 義信、平田 光司
2. 発表標題 原子核特別委員会・研究体制研究体制小委員会の描く『民主的』な共同利用研究施設の体制
3. 学会等名 日本物理学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平田 光司、高岩 義信
2. 発表標題 初期の東大原子核研究所における大学の自治と研究者の自治の間の葛藤
3. 学会等名 日本物理学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高岩 義信、平田 光司
2. 発表標題 原子核特別委員会高エネルギー加速器準備委員会（KKJ：1962-1964）における「原子核研究将来計画」の検討
3. 学会等名 日本物理学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高岩 義信、平田光司、
2. 発表標題 素粒子研究所（原子核研究将来計画）のための高エネルギー加速器の機種「変更」について
3. 学会等名 日本物理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kohji Hirata
2. 発表標題 Incertitude of the Science in case of the Highest Luminosity Accelerator
3. 学会等名 The Society of Social Studies of Science（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島貴子
2. 発表標題 過去の重大化学物質事件から何を学ぶか - 森永ヒ素ミルク，カネミ油症，ポパール事件に見るリスクの継続
3. 学会等名 「森永ヒ素ミルク中毒事件から考える食品安全問題の射程」，特定非営利法人ネットワーク有害化学物質削減ネットワーク・総会記念シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Nakajima, Takako
2. 発表標題 Invisible Legacy of Morinaga Arsenic Milk Poisoning Case: One Aspect to Risk Governance of Food Safety Issues in Japan
3. 学会等名 6th ISESEA (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島貴子
2. 発表標題 「科学の不定性」に気づき、向き合うとは
3. 学会等名 科学技術社会論学会第16回年次研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡辺 千原
2. 発表標題 法社会学研究の動向
3. 学会等名 日本法社会学会2017年度学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡辺 千原
2. 発表標題 紛争解決過程における専門知 - 医療ADRを例に -
3. 学会等名 仲裁ADR学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡辺 千原
2. 発表標題 基礎法学と要件事実
3. 学会等名 2017年度法科大学院要件事実教育研究所・講演会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 WATANABE, Chihara
2. 発表標題 ADR Movement for Medical Accident Cases in Japan : The possibility and limitation of ADR to Alternate Litigation
3. 学会等名 Asian Law and Society Association (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計20件

1. 著者名 田村 哲樹 (編), 尾内隆之 (著, 分担)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 278 (担当: 25ページ)
3. 書名 日常生活と政治 第7章 第7章: エコロジカルな日常生活の可能性 政治による変革, 政治の変革 出版者・発行元 岩波書店	

1. 著者名 藤垣裕子 (責任編集)、小林傳司、塚原修一、平田光司、中島秀人 (協力編集)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 768
3. 書名 科学技術社会論の挑戦 (全3巻)	

1. 著者名 甲斐 克則（編） 米村滋人（ほか著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 信山社出版	5. 総ページ数 284
3. 書名 医療情報と医事法 第1章 「医療情報と医事法の関わり」	

1. 著者名 本堂 毅、平田 光司、尾内 隆之、中島 貴子（編著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 信山社出版	5. 総ページ数 232
3. 書名 科学の不定性と社会	

1. 著者名 米村 滋人（編著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 信山社出版	5. 総ページ数 248
3. 書名 生命科学と法の近未来	

1. 著者名 角田 美穂子、工藤 俊亮（編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 400
3. 書名 ロボットと生きる社会	

1. 著者名 安永 正昭、鎌田 薫、能見 善久 (編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 商事法務	5. 総ページ数 528
3. 書名 債権法改正と民法学 債権総論・契約(1)	

1. 著者名 河上 正二、大澤 彩 (編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 信山社出版	5. 総ページ数 744
3. 書名 人間の尊厳と法の役割 民法・消費者法を超えて	

1. 著者名 瀬川 信久、能見 善久、佐藤 岩昭、森田 修 (編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 574
3. 書名 民事責任法のフロンティア	

1. 著者名 本堂 毅, 関根 勉 他	4. 発行年 2016年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 18
3. 書名 自然科学総合実験	



1. 著者名 本堂 毅, 須藤彰三	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 18
3. 書名 自然科学総合実験	

1. 著者名 本堂 毅	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 25
3. 書名 岩波講座現代 2	

1. 著者名 米村 滋人	4. 発行年 2018年
2. 出版社 信山社出版	5. 総ページ数 248
3. 書名 生命科学と法の近未来	

1. 著者名 橘木 俊詔、宮本 太郎、後藤 玲子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 204
3. 書名 正義	

1. 著者名 山本 雅之	4. 発行年 2017年
2. 出版社 羊土社	5. 総ページ数 228
3. 書名 ヒト疾患のデータベースとバイオバンク	

1. 著者名 角田 美穂子、工藤 俊亮	4. 発行年 2018年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 400
3. 書名 ロボットと生きる社会	

1. 著者名 窪田 充見、森田 宏樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 232
3. 書名 民法判例百選 債権〔第8版〕	

1. 著者名 化学史学会(中島貴子 一部分担)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 化学同人	5. 総ページ数 896
3. 書名 化学史事典	

1. 著者名 上石 圭一、大塚 浩、武蔵 勝宏、平山 真理	4. 発行年 2017年
2. 出版社 信山社出版	5. 総ページ数 784
3. 書名 現代日本の法過程 上巻	

1. 著者名 渡辺 千原	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 383
3. 書名 訴訟と専門知 - 科学技術時代における裁判の役割とその変容	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>科学をめぐる専門的判断の不定性に関する実証的研究  <a href="http://incertitude.jp">http://incertitude.jp</a></p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平田 光司  (HIRATA Kohji)  (90173236)	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構・加速器 研究施設・ダイヤモンドフェロー   (82118)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	尾内 隆之 (ONAI Takayuki) (40460026)	流通経済大学・法学部・教授  (32102)	
研究分担者	米村 滋人 (YONEMURA Shigeto) (40419990)	東京大学・大学院法学政治学研究科（法学部）・教授  (12601)	
研究分担者	鈴木 舞 (SUZUKI Mai) (70761633)	東京大学・地震研究所・特任研究員  (12601)	
研究分担者	渡辺 千原 (WATANABW Chihara) (50309085)	立命館大学・法学部・教授  (34315)	
研究分担者	吉澤 剛 (GO Yoshizawa) (10526677)	公益財団法人未来工学研究所・研究センター・研究員  (82656)	削除：2018年11月27日

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	中島 貴子 (NAKAJIMA Takako)		
連携研究者	笠 潤平 (Ryu Junpei) (80452663)	香川大学・教育学部・教授  (16201)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	辻内 琢也 (Tsujiuchi Takuya)  (00367088)	早稲田大学・人間科学学術院・教授  (32689)	
連携研究者	関根 勉 (SEKINE Tsutomu)  (20154651)	東北大学・高等教育開発推進センター・教授  (11301)	
連携研究者	小林 傳司 (Kobayashi Tadashi)  (70195791)	大阪大学・COデザインセンター・教授  (14401)	
連携研究者	水野 紀子 (MIZUNO NORIKO)  (40114665)	東北大学・法学研究科・教授  (11301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 公開シンポジウム 専門的証拠のための訴訟手続き：科学の専門知を法廷でどう扱うか？	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 専門的証拠のための訴訟手続き：科学の専門知を法廷でどう扱うか？	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
英国	サセックス大学		
フランス	エクス・マルセイユ大学		
ベルギー	KU Leuven		